

第3回研究会を5月19日（土）に行いました。

今回は養父堀 正の曾孫の堀 啓次郎氏が前日から興禅寺の墓参に来られ、この研究会ではじめにご挨拶いただきました。（左ページ）父・母・兄弟で終戦直後満州から引き揚げて、小2から小5まで3年間鳥取市に居住されたそうです。

今回の研究会はかたの婦人参政権運動をテーマに、時代を追って、史実を探して活動を学びました。

- ① 1919（大正9）年禁酒運動から始めた。前年「パリ講和条約」を取材に行った夫企救男から女性の社会進出の様子を書いて送ってきた手紙を読み、活動を始めた。禁酒のビラ配りを長男道夫がカメラに収めたエピソードあり。
- ② 「婦人参政同盟」発足。1923（大正12）年2月、婦人連盟・新眞婦人会・革新倶楽部・婦人禁酒会（かたが代表）・個人参加も加えて創立される。
- ③ 1923（大正12）年9月関東大震災が起き、かた等は救済活動をする。
- ④ 1924（大正13）年10月、婦人参政同盟脱会組の河本亀子は婦人保護協会を作り、西川文子は婦人社会問題研究会を作り、碧川かたの婦人禁酒会の三者は、「婦人参政三派連合会」を結成し、かたは三派理事長となる。昭和2年1月頃までは存在した。

- ⑤ 1927（昭和2）年3月かたは鷺尾よしと「女権擁護会」を作り、自宅を事務所にして雑誌『女権』創刊。道夫の京都転勤のため、3号までしか発刊していない。昭和9年また転勤で東京へ。婦人参政権に関する請願を何度もおこなう。
- ⑥ 戦後、頼みは市川房枝へ 疎開先で衰弱し、公職追放中の市川へ代表として議員になるよう頼んだことが手紙文によりわかる。追放解除されたのが昭和25年、3年後の参議院選挙で当選を果たすことができた。

以上



堀 正 曾孫 堀 啓次郎さんを迎えた研究会

## 尚徳大学で講演して

（鳥取市の高齢者大学）

6月15日（金）、文化センターの2階で「赤とんぼの母 ～碧川かたの生涯 父は和田邦之助～」と題し、120名の方に話しをしました。

父邦之助が関わった因幡二十士事件の経過を藩史の記録から読み解きました。隠居してからのかたの出生、堀夫妻に養女として育てられ、たつのでの結婚、離婚は操（後の露風）との別れにもなりました。というように、かたの生涯をパワーポイントを用いて話しは60分で終り、別な角度から主にかた顕彰碑の建立までの経過をまとめた「鳥取での盛り上がり」を20分見ていただきました。

朝ドラの候補ということで、皆さんがともも関心をもって聞いてくださったこと、署名運動にも協力いただいたことに感謝しております。終了後に以前松崎に住んでいたという方お二人から、貴重なご意見が出た。一人は西向寺のすぐ前に住んでいて、真教寺からの墓移転のこと、和田家があり、同級生がいたことを発言され、もう一人は、先祖が小鹿谷にあったあがり屋敷庄屋をしていたが「あがり屋敷」とは何かとの質問に、午後県立博物館を訪問していっしょに説明を受け、今までの疑問が解けたと喜んでいただいた。生涯学習の大切さを学んだ機会でした。

**たつとの交流コーナー 6月9日(土)** たつのかたの会の7名様が鹿野鳥の劇場に見学と協力依頼にみえました。来春鳥取でたつの演劇メンバーで上演したいということです。こちらかた顕彰会の数人(尾崎かおる・佐々木千代子・藤田・四井)で互いの活動報告をして、今後NHKにもっていくことにしました。

碧川かた 研究会に出席して

私の書いた『元九郎奔る』を読まれた四井さまからお電話をいただき、本日の出席となりました。お招きいただきありがとうございます。

父の妹の春枝叔母からは、「赤とんぼ」の作者、三木露風の生みの母は、曾祖父堀元九郎(明治から正に改名)の養女であつたことをよく聞かされていきました。

父たちの若いころは、碧川の子供たちとも、親しく付き合っていたことを、三女の芳子さんからお聞きしました。学生時代に、一度内田吐夢のお宅に伺つたことがあります、芳子さんの子供の一作さん、有作さんもいっしょに食事をご馳走になつたことがあります。母親のかたさんが、単なる赤とんぼママではなく、女権運動の先端を走る強い女性であつたことを彷彿させる、さつぱりとした女性でした。元九郎の手記には、養女のかたさんのことは一行もふれていませんが、幕末は河田佐久馬の幕僚として、戊辰戦争に従軍していたようです。上野戦争も片付き東北戦線に攻め上つた時、軍監の河田景興から、相馬藩の仕置きをまかされた。相馬藩は、初め勤皇派を宣していたが、東北諸藩からの圧力で佐幕になり、官軍が迫るとまた勤皇に変貌していました。

この相馬藩に対して、元九郎は寛大な措置をしたようで、相馬子爵は、明治になつてもこの時の恩義を忘れず、毎年、小石川の茅屋に賀を祝しに来訪されていたことなど書いてあり、貴重な資料であることが判ります。

討幕派の首領、西郷

隆盛にとつて、鳥取因州藩と備前岡山藩(合わせて65万石)が立ちふさがるか否かが、

最大の関心事であつたことは、間違いありません。徳川親藩の因州藩が薩長側についたのは、元九郎たち勤皇派の、むしろ造反の流れで、筆頭家老荒尾駿河の決断であつたことは事実のようです。



ペンネーム大原啓輔

実名 堀 啓次郎

興禅寺先祖の墓地で、内田さんと



後日談

堀さんの記憶から重要なことがわかりました。堀正が和田家の家臣と誤解された理由です!

「和田家重臣、堀深見」という人物は、元九郎の妻になつたお千代さんの父親のようです。叔母から、堀、堀で結婚したという話は聞いていました。乳飲み子のかたが小鹿谷の堀家(お千代さんの実家)に連れてこられ、近くのきそさんが乳母となつていたという話もこれで氷解しますね。」とメールがありました。除籍簿から千代子は堀深見の二女であることも明確に記してあります。

「今後の関連イベント」

★因幡万葉歴史館で碧川かた手作り資料展を6月30日〜7月22日に開催。

☆6月30日(土) 10時半〜オープニングセレモニー。岡野貞一記念合唱団による「赤とんぼ」ほか、ギャラリートーク。

☆7月7日(土) 10時〜12時、河野浩美さんのトーク。著作『命一コマ』で第4回読売

女性ヒューマン・ドキュメンタリー」大賞入選

6日午後は河野さんをコナン空港から湯梨浜町の和田家の墓参にご案内します。一緒にできる方はどうぞ声をかけてください。

★次の研究会は 10月27日(土) 午後2時〜4時、場所は米子市立図書館第3研修室です。テーマは碧川企救男についてです。

初めての方でもどうぞおいでください。